

今月の推薦句

山田真砂年

寄り道は楽し玉蜀黍に髭

西井久美子

和服着て女濃くなる初鏡

伊藤 翠

ツリーよりタワー親しや小鳥来る

牧園 賀

どぶろくのもてなし瓶を振つてより

大坪正美

返り花みてゐて思ひ出し笑ひ

上田信隆

百日紅に花のへたりや彼岸入

滝代文平

朝礼の背の順替はる九月かな

浜田優子

砲台は海へひた向き葛の花

張本弘子

大津絵のへうげし猿や秋麗

國益悦子

虫の声三歩あゆめば三歩先

中村晃也

豊作や人の集ひを寿ぎぬ

野口翠千

キャツチヤーミットの凹み真つ黒夏の果

岡本秀子

紙幣にも鮮度てふものお年玉

高原貞夫

相槌を少し変へたり切山椒

沼田布美

タ立やズツクシユボシユボ水吐きて

瀧本 萌

和菓子屋の引戸滑らか秋の昼

池田角之助

燕去る土間の汚れをそのままに

小見戸 実

爺ちやんがほうと投げをり稻架かけす

司 まや

俯いて笑ふ少女よ合歓は実に

久保千恵子

高田 峰

俯り居の国勢調査後の月

林 恵美子

関口敦子

赤石の山並へ添ふ稻襖

中村かりん

調律のいらない音色小鳥来る

青木陽子

旅人の革の鞄よ小鳥来る

戸上晶子

レモン切るカリフオルニアは煙たしや

矢代保子

日脚のぶ昼餉の後に洗濯す

相馬ゆう子

踏み出せば影も踏み出す夜半の月

内海山鹿

秋澄めり馬鹿になれたの二人なら

石関二三子

双耳峰紅葉のそこがオキの耳

鈴木京子

新巻の吊され口縄日々乾く

火の恋しふるさと恋し人恋し